

【軟式野球】

1 参加規程

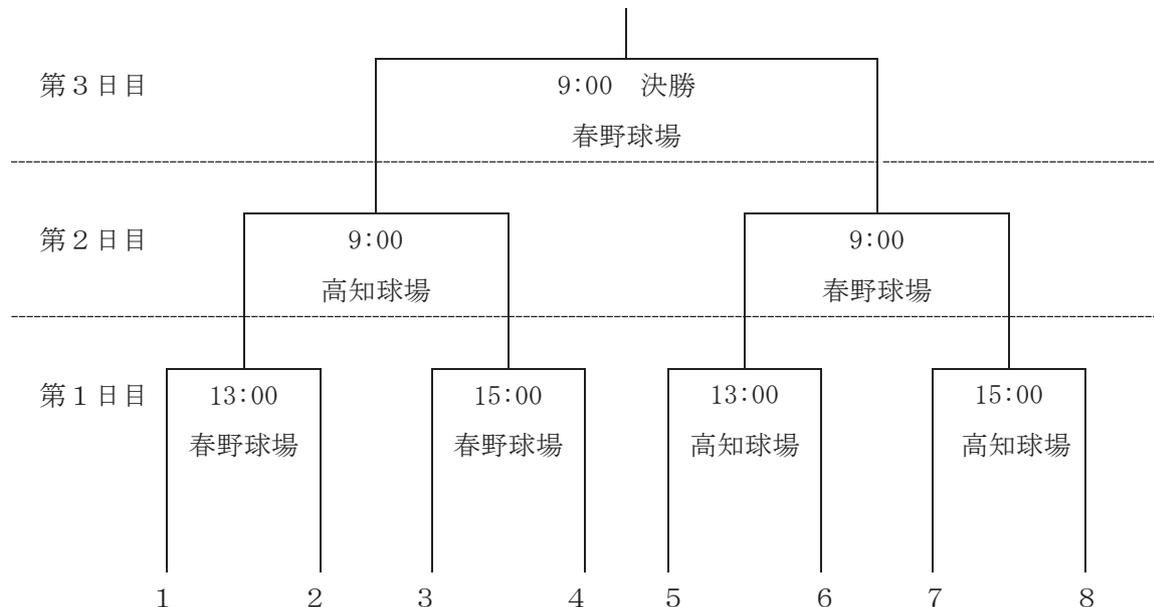
- (1) 各県2チームとする。
- (2) 1チームの編成は、監督(引率責任者)1名、選手18名以内(スコアラーを含む)とする。また、この他に教員を2名追加することができる。但し、外部指導者(コーチ)が入る場合は1名とし、計21名以内とする。地域スポーツ団体等については監督1名、コーチ2名以内、選手18名以内(スコアラーを含む)の計21名以内とし、日本中学校体育連盟軟式野球部参加規定細則に定める条件を満たしていること。なお、すべてのチームの監督は背番号30、コーチは29番、28番をつけるものとする。

2 競技規則

- (1) 当該年度公認野球規則並びに当該年度(公財)全日本軟式野球連盟競技者必携及び別に定める大会特別規定による。
- (2) 使用球は、(公財)全日本軟式野球連盟公認M号球とする。
- (3) その他の使用器具は、(公財)全日本軟式野球連盟公認(JSBBの刻印)のものとする。

3 競技方法

- (1) 全試合トーナメント方式とし、各試合7回戦とする。
- (2) 7回を完了して同点の場合は、タイブレーク戦を行う。
- (3) 背番号は1~18とし、原則としてポジション別とする。
- (4) 組み合わせ



※ 春野球場＝高知県立春野総合運動公園野球場

高知球場＝日本トーター高知市総合運動場日本トーター野球場

※ 開会式は実施しない。閉会式は実施する。なお、参加チームは決勝進出の2チームとする。

【大会特別規定】

【競技を行うにあたって】

- 1 チーム9名からの参加を認める。
- 2 得点差によるコールドゲームは5回以降7点差以上の場合に適用する。決勝戦は除く。また、試合時間の制限は行わない。
- 3 天候等による大会実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部で決定する。その際、会場を変更したり、ナイターで試合を行ったりする場合もある。
- 4 試合を行っているチームの行為が原因で、試合続行が不可能となるようなトラブルが発生した場合、起こしたチームが責任を負うべきであるから、そのチームを敗者とする。

【試合開始前】

- 5 監督に引率されたチームは、試合開始予定時刻60分前までに会場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になっても到着せず、何ら連絡がない場合は棄権とみなす。交通事情による到着遅延の場合は、大会本部で協議し、決定する。
- 6 打順表の提出は、その日の第1試合は試合開始予定時刻の40分前まで、第2試合以降は前の試合の4回終了までとする。ただし、第1試合の前に開会式がある場合は、本部で決定し、連絡する。監督と主将は打順表を持参し、登録原簿と照合ののち、前の試合の4回終了時に球審立ち会いのもと攻守を決定する。
- 7 シートノックについては以下の通りとする。
 - (1) 試合当日の最初の試合のみとするが、球場が変わった場合はこの限りでない。
 - (2) 時間は5分以内とする。状況によっては短縮または省略することもある。
 - (3) 監督・コーチ・登録選手の他に、3名の補助員（当該チーム選手）をつけて行うことができる。
 - (4) 相手チームがシートノックをしている時はベンチから出ない。ただし、先発投手のブルペンでの投球練習は認める。
 - (5) マウンドは使用しない。
 - (6) シートノックを希望しないチームは攻守決定時に本部に伝える。
- 8 ベンチ入れ替わり時、シートノックの準備ができるまでの時間に、ベンチ前でキャッチボールや素振り、準備運動をすることは認める。
- 9 試合開始予定時刻前でも、前の試合が早く終了した場合、次の試合開始を早める場合がある。その場合、開始予定時刻より30分以上は早めない。しかし、悪天候などの理由により、この限りでない場合もある。

【試合中】

- 10 ベンチ内での指示用メガホン使用は、監督に限る。また、電子機器類の使用は、電子スコア記録用としても認めない。
- 11 選手以外は、コーチスボックスに入ることはできない。
- 12 投手（救援投手を含む）の準備投球数は初回に限り、7球以内（1分を限度）が許される。次回からは3球以内とする。また、正捕手の装具準備時において残り2球を過ぎる場合、予備捕手は立って捕球する。
- 13 熱中症予防のため、3回と5回終了時に3分間の給水タイムを設ける。また、5回終了時及び延長戦開始前にグラウンド整備を行う。なお、暑さ指数（WBGT）が31℃に達すると予想される場合については、2回、4回、6回裏終了時に給水タイムを設ける。その場合は4回終了時にグラウンド整備を行う。
- 14 熱中症予防のため、守備時間が長引いた場合、インニングの途中であっても給水タイムを設ける（20分を目安として本

部で判断し、打者のプレイ完了後に給水タイムを設ける)。

- 15 監督が投手のところに行く回数の制限について「投手のところに行く」とは、監督がタイムをとってグラウンドに出て、投手または投手を含む野手が集まっているところで指示を与える状態を指す。伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところに行かせた場合、投手の方からフェールラインを越えて監督の指示を受けた場合も同じとする。
- 16 ボールデッドで改めてタイムをとる必要がない状態の時も、「15」と同じ行為であれば回数に数える。

【その他】

- 17 テーピングをする場合、露出する部分については肌の色に近いものを用いる。
- 18 日光が眩しい場合、サングラスの使用を認める場合がある。サングラスを使用する可能性のある時は、試合前（メンバー交換時）に主催者・審判員に申し出て許可を得たものの使用を認めることとする。メガネ枠は黒、紺またはグレーなどとし、メーカー名はメガネ枠の本来の幅以内とする。グラスの眉間部分へのメーカー名もメガネ枠の本来の幅以内とする。また、著しく反射するサングラスの使用は認めない。
- 19 DH制は適用しない。

競技上の注意事項

- 1 選手の頭髪・身なり等は中学生らしく、試合中はもちろんのことスポーツマンらしい態度で大会に参加すること。
- 2 応援については、監督が責任をもつ。
- 3 応援団は次のことを守って応援すること。
 - (1) 応援はあくまで自チームの応援であって、野次など相手チームや選手が不快な思いをいただくような言動は禁止する。
 - (2) 太鼓等の鳴り物やブラスバンドの応援を認めるが、自チームが攻撃している場面での応援とする。自チームが守備側のときは、座っていることが望ましい。応援の切り替えは3アウト成立時とする。
 - (3) 紙吹雪・紙テープ・個人名を書いたのぼりを使うことは禁止する。
 - (4) 応援席を散らかさず、ゴミは持ち帰り、美化に心がける。
 - (5) 試合を妨害するような応援はしない。
 - (6) メガホンを使用してもよい。
 - (7) 笛（ホイッスル）は使用してもよいが、投手が投球動作に入ると同時に突然使用したり、使用をやめたりするなど投手の投球に影響を与えるような使用は慎む。また、四死球やワイルドピッチ・パスボールなどのときに、笛で盛り上げることをないようにする。
 - (8) 拡声器や音響機器の使用は禁止する。
 - (9) 許可された場所以外にテントを張ることは禁止する。
 - (10) 動画を撮影することは認めるが、その動画を大会期間中にSNSに上げることは禁止する。
- 4 監督等の服装については、次の通りとする。
 - (1) 監督・コーチは選手と同じユニフォームを着用し、監督は30番、コーチは29番、28番の背番号をつける。
 - (2) 監督・コーチではない教員がベンチに入る場合は、平服（白いワイシャツまたはポロシャツが望ましい）に選手と同一の帽子とする。
 - (3) サングラスは使用しない。事情がある場合は大会本部の許可を得る。
- 5 背番号は、一桁までは原則としてポジションを示す数字であり、全員が続き番号であること。
- 6 試合開始・終了時の礼は両チームが同時に行う。また、相手チームと別に審判員に礼をすることはしない。
- 7 試合終了の挨拶をもってすべてを終了とし、速やかにベンチを空ける。ただし、応援席への挨拶は認める。
- 8 試合進行や大会運営の円滑化のため、次のことに留意する。
 - (1) 無用なタイムをとることを慎む。
 - (2) 先頭打者とベースコーチは攻撃前のミーティングには参加せず、駆け足で位置につく。
 - (3) 出塁した際、バッティング手袋をベースコーチに渡さず、自分のユニフォームのポケットの中に入れておく。走塁用手袋に変えるためにタイムをかけ、試合の進行を遅らせてはならない。
- 9 各チームの監督は、試合終了後に大会本部に連絡し、次の試合日程や連絡事項の確認を行うこと。

確認事項

1 ユニフォームの着用について

- (1) 見苦しくないように着用する。
 - ① 上着の裾を出さず、たるませずベルトが見えるように着用する。
 - ② パンツの裾はストッキングのふくらはぎの部分が見えるまで上げる。
 - ③ 肩の部分をたくし上げない。
- (2) ユニフォームの上着に個人名は入れない。また、ノースリーブの上着は認めない。
- (3) ストッキングについて次の通りとする。
 - ① 危険防止のため、アンダーソックスとストッキングの両方を着用する。
 - ② ハイカットストッキングは禁止する。

公益財団法人全日本軟式野球連盟規程細則には、「ユニフォームの袖の長さは両袖同一で、左袖に日本字またはローマ字による都道府県名を必ずつけなければならない。また、他のものをつけてはならない。」と記されている。本大会では特に規制はしないが、この規程に沿ったものを推奨する。

- (4) 複数校合同チームとして参加する場合は、各校のユニフォームの混在で参加する。
- (5) 拠点校部活動として参加する場合は、拠点校となる学校のユニフォームで統一し、参加すること。ただし、特別な事情と認められた場合は、この限りでない。

2 ユニフォーム以外の用具・装具等について

- (1) 用具・装具の使用は、以下に定められたもの以外は、公認野球規則及び競技者必携に定められたものを使用しなければならない。また、特に記載のない用具・装具等については原則使用禁止とする。
- (2) 使用を禁止するもの
 - ① リストバンドは使用できない。
 - ② 滑り止めスプレーは使用できない。
 - ③ 走者が出塁時に、一回り大きいサイズの走塁用手袋の使用はできない。
 - ④ マスコットバット、バットリング、鉄棒、公認球以外のボール等、試合で使用しないものの球場内への持ち込みは禁止する。
 - ⑤ レッグガード・エルボーガード・手甲ガードは原則使用禁止とする。事情により使用を希望する場合は、試合前（打順表提出時）に主催者・審判員に申し出て許可を得る。
- (3) 使用できるが、色等の指定があるもの
 - ① 打者・走者・守備時の野手の手袋の使用を認める。色は白・黒の一色とする。手袋とサポーターの一体型のものの使用も認める。
 - ② ヘルメットはSGマークのついたもので、チームとして色やデザインは同一のものを着用する。また、安全性が確保できないと判断されたもの（例：保護パット不装着、ひび割れ等）は使用できない。※フェイスガードつきヘルメットについては原則使用禁止とする。事情により使用を希望する場合は、試合前（打順表提出時）に主催者・審判員に申し出て許可を得る。
 - ③ スパイクのチーム内（指導者も含めて）での甲被カラーは、白または黒の一色とし、チーム内での混在を認める。
 - ④ 木製バットは、黒色・ダークブラウン系、赤褐色系及び淡黄色系とし、木目を目視できるものとする。ただ

し、拙劣な塗装技術を用いていないものとする。

- ⑤ アームスリーブは医療目的に限り、サポーターに準じて使用を認める。ただし、アンダーシャツと同色とする。

(4) 試合前(打順表提出時)に主催者・審判員に申し出て許可を得た場合に使用できるもの

- ① 医療目的でのサポーター(手首や指を固定、保護する目的のもの)の使用は認める。ただし、色は白・黒・ベージュの一色のものとする。
- ② 健康上の理由及び球場の条件によってサングラスの使用は認める。メガネ枠は黒、紺またはグレーなどとし、メーカー名はメガネ枠の本来の幅以内とする。ガラスの眉間部分へのメーカー名もメガネ枠の本来の幅以内とする。また、著しく反射するサングラスの使用は認めない。

3 その他の事項

(1) テントの設置については、スタンド(各ベンチより外野側は設営可)のみとし、それ以外へのテントの設営は禁止する。

(2) 試合前のグラウンドでのウォームアップに関して

- ① 登録メンバー(選手、監督、コーチ)と補助員3名のみとする。
- ② ユニフォーム着用者以外のグラウンド内への立ち入りを禁止する。ただし、第1試合チームは打順表の交換まではチームで統一されたTシャツも可とする(アンダーシャツのみは禁止する)。
- ③ グラウンドに出る際は、必ず着帽する。

(3) 補助員の服装は選手と同じユニフォームとするが、準備(用意)できない場合は練習用ユニフォームまたはチームTシャツでもよい。

(4) 教員が平服でベンチに入る場合は、緊急時対応(怪我等)以外、グラウンドに出ることができない(ノック等でグラウンドに出る場合はユニフォームを着用すること)。

(5) 試合中の控え選手のグラウンド内でのウォームアップは、攻守交代時に限り、ファウルグラウンドで外野の方向へのランニングを認める。

(6) スタンドでのまとまった応援は、ベンチよりも外野側で行うこととする。

4 野球規則、競技者必携に記載があるが、もう一度確認してもらいたいこと

(1) 7回を完了して同点の場合は、次の方法により勝敗を決定する。

- ① 延長戦は行わない。
- ② タイブレイク方式とする(勝敗が決するまで継続する)。

<タイブレイク方式>

継続打順で、前回の最終打者を一塁走者とし、二塁の走者は順次前の打者とする。すなわち、0アウト1・2塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合は、さらに継続打順で得点差が生じるまでこれを繰り返す。なお、規定によって認められる選手の交代は許される。

(2) 投手が手首や腕にサポーターなどを使用することは禁止する。テーピングについても投球時にボールに触れる部分と露出する部分については禁止する。

(3) 試合前のグラウンドでのハーフ打撃、フリー打撃は禁止し、トスバッティングまでとする。

(4) 次の試合の先発バッテリーに限り打順表の提出後、試合に差し支えないようにブルペンでの投球練習を許可する。

(5) 選手交代の申し出は、監督が行う。

- (6) 投手の投球数は1日100球、大会期間中350球までとする(タイプブレイク方式も含める)。ただし、投球数が100球に達した打者までは100球を超えて投球してもよい。また、大会期間中、350球に達した打者までは350球を超えて投球してもよい。※雨天等の順延のため、ダブルヘッダーとなった場合も、本規定を適用する。
- (7) 用具・装具については、試合前に審判員または大会役員の確認に応じなければならない。

① 点検内容については、以下の通りとする。

(1) バット

- ① 金属疲労による「ひび」などがないか。
- ② へこみやくぼみ、亀裂はないか。
- ③ 木製バット以外の握りの部分は、市販のグリップテープ専用テープで止めてあるか。
- ④ グリップテープが摩耗していたり、剥がれたりしていないか。
- ⑤ エンドテープが剥がれていないか。
- ⑥ 金属バットは、J S B B公認のものであるか。
- ⑦ バットの規制がある場合は、規格外のものはないか。

(2) ヘルメット

- ① S Gマークがついているか。
- ② 両側にイヤーフラップがあるか。
- ③ 内側の保護パットがついているか。また、パットが固定されているか。
- ④ 亀裂や破損はないか。
- ⑤ チームとして、色やデザインが同一(同意匠)であるか。

(3) 捕手の装具

- ① マスク・レガーズ・プロテクターは、J S B B公認のものであるか。
- ② ヘルメット・マスクは、S Gマークがついているか(2023年度、マスクについては緩和)。
- ③ マスクにスロートガードが装着されているか。ただし、スロートガード一体型のマスクは装着しなくてよい。
- ④ マスク・レガーズ・プロテクター及びヘルメットに亀裂や破損はないか。
- ⑤ 捕手はファウルカップを装着しているか。
- ⑥ 予備捕手の装具についても、同様であるか。

(4) グラブ

- ① 「綴じ紐」の長さは、親指より長くないか。
- ② 投手のグラブについて
 - ア 縁取り・縫い糸を除き白色・灰色以外のものであるか。
 - イ 色がPANTONEの色基準14番よりも薄い色でないか。
 - ウ 縁取り、絞め紐・縫い糸を除くグラブ本体(捕球面・背面・網「ウェブ」)は1色であるか。また、そのグラブの色と異なった色のものを、グラブにつけていないか。

(5) 手袋

- ① 野球用の手袋であるか。
- ② 色は白・黒の単色であるか。

② 指摘を受けた時に補修することは認める。その場合、補修完了後、再度点検を受ける必要がある。